

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷十五第

月六年五十和昭

論叢

支那に於ける農地の典に就いて……………經濟學博士 八木芳之助
統制經濟下に於ける統計と經理……………經濟學博士 蜷川虎三

時論

利潤統制の革新的意義……………經濟學博士 谷口吉彦

研究

清末紙幣考……………經濟學士 徳永清行

『道德情操論』の研究……………經濟學士 白杉庄一郎

徳川時代に於ける丹後縮緬機業の發展過程……………經濟學士 堀江英一

說苑

價格に於ける歴史的傳統性……………經濟學士 桑原晉

北陸の漆器工業……………經濟學士 田杉競

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十卷總目錄

彙報

經濟學部

○宮本又次氏は昭和十五年四月三十日付を以て經濟學部講師を囑託せらる。

○大學院入學許可(經濟學部所屬)

東亞經濟理論

尤 德 順

農業經濟學

白 永 興

東亞經濟政策に關する研究

齋 藤 一 郎

經濟學原論

北 村 由 之

經濟學會

○五月例会 五月七日(火)午後五時半より樂友會館に於て靜田助教授・松井講師並に本年度大學院新入學生歡迎會を兼ねて經濟學會例会を開催した。先づ谷口部長の歡迎の辭に次いで、靜田助教授・松井講師併に新入學生の謝辭及自己紹介を以て一應歡迎會を終り少憩に入つた。

七時十五分より例会に入り、「北支滿洲管見」と題して中谷助教授・佐波助教授の報告があつた。

先づ佐波助教授は起つて、天津を中心として見た北支の保險市場、並に新京及び奉天を中心として見た滿洲の保險市場の國際性に就て述べ、土着資本商社の低位、英米資本商社にとつて

代らんとする日本系資本會社の進出、並に新しい危險と高度の危險の分散の爲に再保險の傾向著るしく、殊に、滿洲に於ては最近これを保險統制の名の下に成文としてゐるに至つた事を述べ、次ぎに北支滿洲の新しい危險及高度の危險の原因を解明して一、治安の不確立 二、運送業務従業員の量的質的低劣 三、埠頭・倉庫等輸送貯藏設備の不完全 四、聯銀券の價值下落に伴ふ爲替の危險を擧げられ、最後に助教授は此の旅行に於て學問的方面以外にも多くの體驗を得られた事を述べて結ばれた。

中谷助教授は漫談的に冒頭して北京並に滿洲の物價問題並に日本人の偏狭なる性格に就ての目下の關心事を興味深く述べられ、次づ北京の價格の骨董品的價格なる事を指摘し、最近の物價騰貴の原因を次の七に求められた。即ち一、作戰上の要求 二、奥地からの送品の減少と其の大手筋への偏在 三、通貨數量の増大 四、通貨流通速度の増大——聯銀券への不信任と換物熱 五、山東苦力の送金 六、北支商業資本の滿洲に於ける利潤の回収 七、物資の相對的減少であつて、此が對策に就ての現地の人々の努力を高く評價されたが、一方滿洲に於ける大豆の公定收買價格を例に擧げて統制の拙劣さを述べ、殊に金融合作社と農事合作社の反目の如き横の部面の統制に缺くる事を指摘せられた。

斯くて質問に入り、九時十五分多大の感銘裡に盛大なる本會の幕を閉じた。

當日の出席者——小島、汐見、石川、谷口、八木、柴田、松

岡、大塚、堀江(保)、中谷、佐波、穂積、徳永、靜田、白杉、
青山、松井、田杉、出口、鈴木、堀江(英)、憲容の諸先生。尤
白、岡本、尾上、岡部、大橋、河野、吉川、辻、中西、中瀬、
小泉、青盛、澤崎、齋藤、三谷の諸氏。

○會員 勳 靜